

気温もぐっと下がり、暖房器具が欠かせない時期になりました。使い捨てカイロや湯たんぼ、ホットカーペット、コタツなど、寒さ対策として何気なく使っている暖房器具が、使い方によっては「低温やけど」を引き起こす原因となりますので注意が必要です。

今回は

## 『手術室における感染対策』

です。

## 手術時手指消毒

**Q1、手荒れやアルコール過敏症でアルコール製剤を使用できないスタッフはどうすれば良いですか？**

A1、どうしてもアルコール製剤を使用できない場合は、グルコン酸クロルヘキシジンスクラブ製剤やポピドンヨードスクラブ製剤を用いたスクラブ法を実施するか、手術時手洗いをする必要のない業務に異動するなどの工夫が必要です。

手指衛生製品、特に石けんやその他の界面活性剤を繰り返し頻繁に使用することが、医療従事者の慢性刺激性接触皮膚炎の主な原因となっています。界面活性剤による皮膚炎にはばらつきがありますが、エモリエント剤や保湿剤添加により改善できます。

手荒れの要因はアルコール製剤の使用だけでなく、手洗い時の温水の使用、ハンドローションやクリームを使っていないこと、ペーパータオルの品質及び拭き方、手袋の着脱法やラテックスアレルギーなど様々です。

何らかの原因で損傷した皮膚が、アルコール製剤による刺激に弱くなります。多方面から手荒れの要因が除去できるよう工夫し、どうしてもアルコール製剤を使用できない場合には、他の消毒方法を実施します。

### 医療従事者の手荒れの要因<sup>1)</sup>

1. 石けんや界面活性剤の繰り返し使用
2. 温水の使用
3. ハンドローションやクリームの未使用
4. ペーパータオルの品質、拭き方
5. 手袋の着脱の時の剪断力
6. ラテックスアレルギー
7. ブラシの使用
8. 家庭における水仕事の頻度 など

**Q2、ブラシは全く使用しなくて大丈夫？**

**爪先だけでも使用した方が良いでしょうか？**

A2、「医療現場における手指衛生のためのCDCガイドライン」では手術時の手指消毒について、ブラシを用いないアルコールを中心とした手術時手指消毒が推奨されました。広範囲の部分へのブラシの使用は皮膚を傷つけてしまいますので、気になる場合は、汚れが落ちにくい爪の部分だけの使用をお勧めします。

従来、手術時の手指消毒にはブラシを用いて爪の先から肘の上まで手洗いする等の方法が求められていました。しかし、このような方法は皮膚を損傷し、結果的には皮膚炎を引き起こし、細菌増殖の温床となることによって、手術部位感染のリスクを高めるだけでなく、このような手洗いに耐えられないスタッフを生み出す要因にもなっています。

### 医療施設における手指衛生のためのCDCガイドライン<sup>1)</sup>のポイント

①「スポンジ」もしくは「スポンジとブラシ」で手洗いしてもブラシでスクラブした場合と同じくらい効果的に手の細菌数を少なくできます。また、特にアルコールを主成分とする製剤を使用すれば、手術スタッフの手の細菌数を許容可能なレベルまで減少させるために、ブラシもスポンジも必要ないとされています。

②いくつかの研究では5分間のスクラブでも10分間のスクラブと同じくらい効果的に細菌数を減少させることが示されています。さらに、2～3分間のスクラブでも許容レベルまで細菌数が少なくなったとする報告もあります。

Q3、アルコール製剤を使用する場合、どれくらいの量をどれくらいの時間塗り込めれば良いのでしょうか？

A1、使用量や接触時間の規定はありません。

消毒部位にムラなく行き渡るように十分な量を使用することが重要です。



#### 医療施設における手指衛生のためのCDCガイドライン<sup>1)</sup>のポイント

①アルコールベースの手指衛生製品の効能は、使用されているアルコールの種類、温度、接触時間、使用量、また、アルコールの塗布に際して手が濡れていたかどうかなど、いくつかの要因を受けます。

②手に塗布する理想の量はわかっておらず、製品形態によってことなる可能性があります。

Q4、手術時の手洗いに用いる水は滅菌水でなくても良いと聞きましたが、どのような水でも良いですか？

A4、手術時手洗いに用いる水は、管理された水道水を使用します。

わが国では、伝統的に手術時手洗いに特別に作成した滅菌水を持ちいるのが一般的でした。しかし、滅菌水と水道水による手術時手洗い後の手指生残菌数には有意差がないことから、平成17年2月1日、医療法施行規則第二十条第三号中「滅菌手洗い」を「清潔な手洗い」に改められました。

●ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎にご注意を  
予防のポイント

#### ①手洗い

調理や食事の前に、トイレの後に後には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

#### ②汚物の処理方法

便やおう吐物を処理するときは、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

#### ③二枚貝の調理方法

カキなどの二枚貝は中心部まで十分に加熱しましょう。  
(中心温度85℃で1分以上の加熱が必要)

●インフルエンザが流行する季節が近づきました。

インフルエンザにかからないために  
流行前に予防接種を受けましょう

・最大の予防法は、流行前にインフルエンザワクチンの接種を受けることです。

・ワクチンの接種で、インフルエンザに感染しにくくなりますし、かかったとしても軽い症状ですむことが証明されています。

#### 日常生活における予防法

- ・帰宅時には「手洗い」「うがい」をしましょう。
- ・室内では、加湿と喚起をよくしましょう。
- ・十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心がけましょう。
- ・人ごみを避け、外出時にはマスクを着用しましょう。

#### 咳エチケット

- ・咳やくしゃみをしているときは、マスクを着用しましょう。
- ・咳やくしゃみをするとき、マスクを着用していない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1メートル以上離れましょう。
- ・鼻水、痰などを含んだティッシュを、すぐに蓋付きのゴミ箱に捨てられる環境を整えましょう。